

私たち地域デザイン部は、昨年12月13日（土）に大阪商業大学で開催された「第24回全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」において、グランプリを受賞し、日本一に輝きました。本大会は、自立した人材の育成を目的に、全国の高校生から新たな商品やサービスのアイデアを募集するものです。本年度は全国147校から6,275作品の応募があり、厳しい予選を経て選ばれた7校が最終審査のプレゼンテーションに臨みました。

私たちが提案したアイデアは、「サイクルケアタウン～自転車をつなぐ、健康と暮らしと地域の輪～」です。人口減少と高齢化が進む四国中央市では、移動の不便さや健康不安、地域経済の停滞が深刻な課題となっています。本プランでは、移動手段に限られる高齢者や車を持たない住民を主な対象とし、自転車を軸に「移動支援」「健康づくり」「地域活性化」を同時に実現する持続可能な仕組みを構想しました。



具体的には、①買い物代行や見守りを兼ねた自転車宅配、②電動アシスト自転車を活用した健康促進、③特産品と連動した観光サイクリング、④廃棄自転車の再活用による移動手段の確保、⑤ドイーツ配達サービスの展開です。これらを通して、生活の利便性向上と環境負荷の軽減、地域経済の循環を目指しました。



最終審査に向けては、放課後や夜遅くまでプレゼン資料の作成や発表練習を重ねました。原稿を何度も見直し、思うように発表できず悩む場面もありました。途中で妥協しそうなこともありましたが、そのたびに部員同士で声を掛け合い、最後までやり切ることができました。

当日、会場には独特の緊張感が漂い、他校の発表はどれも完成度が高く、圧倒される場面もありました。それでも「ここまで積み重ねてきた努力を信じよう」と気持ちを一つにし、プレゼンテーションに臨みました。強い緊張の中でしたが、発表を終えた瞬間、これまでで一番納得のいく内容を届けられたと感じました。結果発表は、グランプリ校からの発表でした。どの学校が選ばれるのかと息をのんで見守る中、最初に読み上げられた校名は



「愛媛県立土居高等学校」でした。一瞬状況を理解できず、次の瞬間、部員全員で喜びを分かち合った光景を今でもはっきりと覚えています。この受賞は、私たちだけの力では成し得なかったものです。日頃から支えてくださった地域の皆さま、学校の先生方のご協力があってこそその結果だと心から感じています。この仲間と活動してきて本当によかったと実感するとともに、これまでの努力が報われた喜びで胸がいっぱいになりました。

今後もこの経験と感動を忘れず、地域に貢献できる活動を続けていきたいと思っております。